

冬の補聴器トラブル 寒い季節から補聴器を守ろう

寒さが身に染みる季節になりました。夏の汗と同様に、実は、補聴器にとっても、冬は要注意の季節です。

1 結露

特に補聴器にとって大敵となるのが外気温と室内の急激な温度変化です。眼鏡をかけている人は、寒い外から暖かな室内に戻った瞬間、メガネのレンズが曇った経験があると思います。こうした結露が同じように補聴器で起こり、内部に水分が入り込むと、補聴器のマイクやスピーカーがダメージを受けてしまうことがあります。結露が補聴器の電池室まで入り込むと電池の劣化につながります。さらに、補聴器のチューブに水滴が溜まることで、音が出なくなることもあります。レンズの曇りや窓の結露は一目でわかりますが、補聴器の場合には気づきにくいものです。

一日の終わりにはしっかりと電池ふたを開け、電池を取り出し乾燥剤の入ったドライケースなどに収納するか、補聴器専用の乾燥機を使用するのも有効です。湿気の影響を感じたら、すぐに乾燥機に補聴器を入れ十分に乾かすことでダメージの発生を防ぐことができます。

2 静電気

また、冬は静電気にも気をつけましょう。衣服を着脱するときにおこる静気は補聴器故障の原因となりやすいです。

3 乾燥

乾燥は、補聴器本体よりも、補聴器の電池にとって良くありません。乾燥した空気は、電池の中にある電解液の水分を蒸発させるため、電池寿命が短くなってしまいます。また石油ストーブやガスヒーターを使用すると、乾燥に加えて空気中に発生する二酸化炭素が原因で、性能が劣化し電池寿命がさらに短くなる傾向があります。教室でもこまめな換気を心がけ、家などでは加湿器を上手に利用しながら、乾燥対策をしていきましょう。

壊れてしまって修理に出すとお金がかかります。自分で日頃から丁寧に扱って故障させないことが大切です。そして1年に1回は補聴器店で点検を受けることをお勧めします。

「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」

あすなる 11月号でも紹介しましたが、12月16日(土)23日(土)PM10:00~前後編ドラマ「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」が放送されます。リモコンなどで「字幕」表記を選択する必要なく、すべてのセリフで音声にほんご しゅわ じまく が付けられています。Eテレでは、すべてに手話が付いたものが 2024年2月4日(日)11日(日)PM3:45~放送予定になっています。

<あらすじ> 荒井尚人(草彅剛)は、コーダであることに複雑な感情を抱えながら生きていた。しかし、交際する安斉みゆき(松本若菜)との将来を考え、手話通訳士の道を選ぶ。そんな尚人のもとを刑事の何森稔(遠藤憲一)が訪れ、殺人事件について尋ねる。その事件は17年前に尚人が手話通訳を担当した、決して忘れることのできない事件と関係していた。再び法廷での手話通訳を決意した尚人は、手塚瑠美(橋本愛)からの仕事依頼をきっかけに…

このドラマの注目点はろう・難聴者の役を当事者が自ら演じているところで、20人ものろう者、難聴者と聴者が共に作り上げた画期的な作品となりました。これまでろう者の役は、健聴者が演じることが多く、見ていて違和感を感じる人も多かったそうですが、老若男女様々なろう者が、ならではの表現で演じることでキャラクターにリアリティが生まれます。声の芝居とは違う手話の演技を、どうセリフに落とし込んでいくか試行錯誤しながら進められたそうです。

ろうと健聴の兄弟の葛藤、コーダの苦しい胸の内を家族に伝えるシーンについて、主演の草彅さんはインタビューで次のように話されていました。「このタイトルのおお、実際のろうの方との手話のお芝居でデフ・ヴォイスが聞こえるんですよ。お兄ちゃんと犬猿の仲なので、そういうシーンの時の彼のデフ・ヴォイスがすごい良くて、感情がのってくる。デフ・ヴォイスを聞くと、より僕も自分の役にはいってける。」

タイトルの「デフ・ヴォイス」は、「ろう者の声」「手話」「社会的少数者の声」の3つの意味が込められています。是非、観てくださいね。


12月13日放送 ハートネットtvより

ほ ちよう き てん らい こう び

補聴器店 来校日

< 13:10~ 通級教室 >

□神戸ヒヤリングセンター	1月11日(木)	25日(木)
□トーチン姫路補聴器センター	1月19日(金)	



補聴器の故障や買い替え、作りの作り替えの際は、補聴器店 来校日を確認して、担任にお申し出ください。